



消える職業・なくなる仕事

インターネットのニュースサイトに、「オックスフォード大学が認定 あと10年で「消える職業」「なくなる仕事」702業種を徹底調査」という見出しがあったので覗いてみたが、当然のことながら「教員」が出ているかを確認してしまったわけだ。幸か不幸か(笑)教員は登場していなかったが、どんな仕事が「あと10年で「消える職業」「なくなる仕事」として認定されていると思う? では、引用してみよう。

＊

「コンピューターの技術革新がすさまじい勢いで進む中で、これまで人間にしかできないと思われていた仕事がロボットなどの機械に代われようとしています。たとえば、『Google Car』に代表されるような無人で走る自動運転車は、これから世界中に行き渡ります。そうなれば、タクシーやトラックの運転手は仕事を失うのです。

これはほんの一例で、機械によって代わられる人間の仕事は非常に多岐にわたります。私は、米国労働省のデータに基づいて、702の職種が今後どれだけコンピューター技術によって自動化されるかを分析しました。その結果、今後10～20年程度で、米国の総雇用者の約47%の仕事が自動化されるリスクが高いという結論に至ったのです」

人間が行う仕事の約半分が機械に奪われる—そんな衝撃的な予測をするのは、英オックスフォード大学でAI(人工知能)などの研究を行うマイケル・A・オズボーン准教授である。

そのオズボーン氏が、同大学のカール・ベネディクト・フライ研究員とともに著した『雇用の未来—コンピューター化によって仕事は失わ

れるのか』という論文が、いま世界中で話題となっている。

同論文の凄味は、702の職種すべてについて、コンピューターに取って代わられる確率を仔細に試算したことにある。言うなれば、これから「消える職業」「なくなる仕事」を示したに等しく、これが産業界に衝撃を与えているわけだ。

- 主な「消える職業」「なくなる仕事」**
- 銀行の融資担当者
 - スポーツの審判
 - 不動産ブローカー
 - レストランの案内係
 - 保険の審査担当者
 - 動物のブリーダー
 - 電話オペレーター
 - 給与・福利厚生担当者
 - レジ係
 - 娯楽施設の案内係、チケットもぎり係
 - カジノのディーラー
 - ネイリスト
 - クレジットカード申込者の承認・調査を行う作業員
 - 集金人
 - バラリーガール、弁護士助手
 - ホテルの受付係
 - 電話販売員
 - 仕立屋(手縫い)
 - 時計修理工
 - 税務申告書代行者
 - 図書館員の補助員
 - データ入力作業員
 - 彫刻師
 - 苦情の処理・調査担当者
 - 簿記、会計、監査の事務員
 - 検査、分類、見本採取、測定を行う作業員
 - 映写技師
 - カメラ、撮影機器の修理工
 - 金融機関のクレジットアナリスト
 - メガネ、コンタクトレンズの技術者
 - 殺虫剤の混合、散布の技術者
 - 義歯制作技術者
 - 測量技術者、地図製作技術者
 - 造園・用地管理の作業員
 - 建設機器のオペレーター
 - 訪問販売員、路上新聞売り、露店商人
 - 塗装工、壁紙張り職人

左に載せたのは、そうした「消える、なくなる」可能性の高い主な仕事である。いずれもコンピューターに代わられる確率は90%以上という驚くべき数字が弾きだされている。

「具体的には、コンピューター化の障壁となりうる9つの仕事特性を抽出して—たとえば、手先の器用さ、芸術的な能力、交渉力、説得力など—、702の職種を評価したのです。」

＊

科学技術の進歩は恐ろしいスピードで進んでいるということだ。これがどんな人間の「欲望」と結びつくのだろうか?